

第2回まちづくり委員会議事録

会議年月日	28年9月23日	時間	0:00 ~ 14:00	場所	おおたき
出席者	小林秀行担当役員、野口大介委員長、新保美穂副委員長、熊谷善紀副委員長 川上恵一、矢口則義、中條 弘、堀内泉、増田博志、丸山淳治 以上10名				
議 題					
1:野口委員長より今までの経緯と、矢久保松本市政策部長との打合せ内容の報告。					
2:報告内容をふまえた上で長野県建築士事務所協会まちづくり委員会として案内容の説明。(別紙参照)					
3:<意見・要望>					
・「まちづくり」に対する助成金を調べて、活用した方が良いのではないか。					
・経済産業省の補助対象団体に、「クラフトフェア」が入っているので、そこを糸口にできる可能性はあるのではなかろうか。					
・改修工事(耐震改修を含めて)を行うことによって、今後の耐久年数がどのくらいになるのか等の説明があると更に説得力が増すのではないか。					
・フォーラムで発表する内容を、ホームページなどでダイジェスト版でよいので見れる様に出来ないか？					
・この建物(旧幸町保育園)を耐震改修工事までして存続させていく理由をもっと強調したほうが良い。					
例)・新築でこの規模の建物を建てるより手を加えて使っていった方がコスト的に有利である。					
・空き家対策のモデルケースになる。					
・クラフトフェア等により、「クラフトのまち松本」が根付いてきているなか、市街の中では数少ない準工業地域であり、他ではできない有利性がある地域である。等々。					
・「クラフトのまち」が根付いてきており、経済効果も期待できるようになってきているので、よりいっそう「クラフト」をキーワードに全面に押し出していった方が良いのでは。					
・松本市の空き家対策は、長野県内の他の市町村に比べて最低レベルである。 (上田と塩尻が積極的に対策をうちだしている)今回の計画は空き家対策としても有効と考えられる。 (筑北村も参考になる。特に旧坂北村の村長が頑張っている。)					
・本計画案を提出する前に、矢久保部長と再打ち合わせし、再調整して提出した方が良いのでは。					
・図枠に「長野県建築士事務所協会」の表示を必ず入れた方が良い。					
・渡り廊下から西部分は2期工事であり、北半分は鉄骨造、南半分は木造である。 また、渡り廊下から南部分は3期工事であり、鉄骨造である。					
・資料3枚目の「工芸家の住居兼工房改修案(サンプル)」について					
a) 図中左上の写真中の長屋は、現在とりこわされているため、図面から削除した方がよい					
b) 改修プラン2階について、風が通るように北に開口部を設けたほうが良い。					

・概算コストについて

a) 耐震補強工事・・・耐震補強設計＋工事＝約3,000万円

b) その他工事・・・300坪×50万円/坪＝約15,000万円

と試算した場合、家賃収入等とのバランスで収支がとれるかどうかまで試算して資料に盛り込むと説得力

Ex)新築を想定すると・・・

.80万円/坪×300坪＝24,000万円＋設計料＋解体費用

4:今後のスケジュール

・現資料を元に、政策課矢久保部長と打合せ(仮提出)。その後修正を加え、正式に提出。

・矢久保部長と打ち合わせ後、再度委員会を開催。

・10月4日現在現資料仮提出済。部長との打ち合わせは部長の日程調整中。(まだ行われていない)

5: 9月30日 まちづくり視察につて

出席者:20名内当まちづくり委員会出席者5名(熊谷、荒井、矢口、竹内、野口)

視察地:東京都台東区谷中 上野桜木、谷中NPO法人「たいとう歴史都市研究会」

東京国立博物館

・視察内容については次回理事会にて報告します。

以上